# 第 13 回国連ウェーサクの日祝賀式典

**メッセージ**

**国連会議場　バンコク**
**2016 年 5 月 23 日**

**イリナ・ボコヴァ**
**ユネスコ事務局長メッセージ**

**『平和の伝道者に』**

2500 年以上も前、ガウタマ･シッダールタ王子（釈尊）は、ティラウラコットにある父の王国（カピラ城）の東門を潜り抜け、悟りを求める旅を歩み始められました。今日までに、何世代にも及び世界中の修行者たちを惹きつけています。

釈尊が 50 年以上の歳月をかけて説いた尊い教えは、自他、万物との平和の道を提唱しています。これは相互依存性という真実の深い理解と内省、瞑想、行動を通したすべての人間の変革する力に根ざされた道です。それは、マインドフルネス・寛容・慈悲の功徳、倫理の必要性、平静と因果関係の原理を教えてくれます。

これらの教えは、人の心に平和の砦を構築するというユネスコの基本原則と深く共鳴します。未だかつてないほど人々と社会が関係し合い、私たちの環境への影響が日常的に見えるようになることで、私たちの行為一つひとつが共通の人間性にその結果と尊敬を生むという気づきを基に、不寛容な姿勢でありながらも慎重に判断ができるようになったとき、それがあらゆるところで平和の礎を強化する一番の鍵になります。

ユネスコは、心の中の平和の砦が構築されるのは、学校で机を並べて勉強する頃から始まると信じています。そこでは、対話や理解を通して、多様性や普遍的な人権が尊重され、最も弱い者を支援し、自然環境や有限な資源を大切にする心が促進されます。

誰も置き去りにしないことが、持続可能な開発のための 2030 アジェンダの掲げる大望です。これには結束力と倫理的義務という共通の責任意識への新たな方針が必要とされます。この広い視野とそれに伴う異文化理解能力は、教育を通した暴力的過激行為への協調姿勢と同様、ユネスコが推進する地球市民教育の精神を実証するものです。

先月ネパールにて、私は光栄なことにルンビニの世界遺産である釈尊生誕の地を訪問しました。釈尊の偉大な人生の旅の出発点には、平和への普遍的なメッセージが漂い、人類への深い感動と智慧の源が体現されていました。素晴らしい普遍的価値と人々の心の平和を構築する深い宗教的意義への敬意を促し、この世界遺産を護り維持していくべきです。

2016 年の国連ウェーサクの日が、性別を問うことなく、潜在的に誰もが平和の伝道者になれるという信念に生きるすべての人間が集う機会となることを願っております。